

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

I 履 修 方 法

1 卒業の要件

① 修業年限

修業年限を4年とする。

4年間で卒業の要件に定める単位を修得できない場合は年限を延長することができる。

ただし、在学年数は、休学期間を除いて8年を超えることはできない。

② 卒業までに修得すべき単位数

本学では授業科目を共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の3つに区分しており、定められた履修方法に従って単位を修得し、この3区分を通して124単位以上を修得しなければならない。また、本学科では科目区分ごとに修得すべき最低単位数を設定している。

卒業単位数	科目区分	単位数	特記事項
124単位以上	共通教育科目	8単位以上	1 共通教育科目は、『基礎教養科目群』、『ジェンダー科目群』、『学び発見ゼミ』から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)を含めて修得すること。 2 下に掲げる表の外国語科目から合計8単位以上を含めて修得すること。
	基礎教育科目	12単位以上	
	専門教育科目	62単位以上	

外国語科目に関する卒業要件

卒業単位数	科目区分	科目名	単位数	備考
8単位以上	共通教育科目	言語・情報科目群(言語リテラシー科目)	科目による	選択
	基礎教育科目	基礎英語 I	1	必修
		基礎英語 II	1	必修
		Oral Communication I	1	必修
		Oral Communication II	1	必修
		TOEIC認定英語 I～IV	各2	単位認定
	専門教育科目	専門英語A	1	選択必修 (1単位以上)
		専門英語B	1	
		海外の健康・スポーツの研究	2	選択

(注) 教職基礎科目の「日本国憲法」、学校図書館司書教諭課程科目、図書館司書課程科目、博物館学芸員課程科目の単位を修得した場合、合計で上限20単位まで卒業に必要な単位数に含める。

2 取得できる学位 学士(健康・スポーツ科学) ※ () 内は専攻分野

3 履修登録単位数の上限(キャップ制)

履修した科目について十分な学修時間を確保し、学修した内容を真に身につけることを目的として、学科ごとに1年間及び1学期間に履修登録できる単位数の上限を年間50単位未満、1学期間25単位以下と定められており^(注1)、これを「キャップ制」という。上限の単位数を超え

る履修登録は認められない。ただし、資格課程科目^(注2)、学外実習科目^(注3)、単位認定科目、再履修科目、卒業非算入科目（卒業要件単位に含まれない科目）は、キャップ制の対象となる科目に含まれないため、上限単位数を超えて履修登録することができる。

1年間及び1学期間に履修登録できる単位数に上限があるため、1年次から確実に単位を修得していくことが大切である。履修便覧には、卒業までに、どのような科目をどれだけ履修しなければならないか、資格取得に必要な科目や履修に関する注意事項等が記載されている。履修便覧を十分に読み、1年次からしっかりした履修計画を立てて履修登録を行うこと。

なお、2年次以上で履修登録時までの累積GPA^(注4)が3.00以上の学生は、当該学期については30単位まで履修登録することができる。

(注1) 通年科目は単位数を半分に分割し、学期ごとに加算される。

(注2) 教職基礎科目の「日本国憲法」、学校図書館司書教諭課程科目、図書館司書課程科目、博物館学芸員課程科目

(注3) 基礎教育科目・専門教育科目の科目形態欄に「外」と表記されている科目のことをいう。

(注4) 累積GPAとは、入学時からの履修登録した科目のうち、卒業非算入科目を除く科目の成績の平均を数値で表したもの。

4 資格課程科目について

共通教育科目や基礎教育科目・専門教育科目とは別に、免許・資格を取得するために必要な講義や実習・演習といった授業科目を資格課程科目として開講している（下の①～③）。

① 学校図書館司書教諭課程科目 312頁参照

② 図書館司書課程科目 314頁参照

③ 博物館学芸員課程科目 316頁参照

5 その他

学科資格は、学科の基礎教育科目・専門教育科目一覧で確認すること。

II 共通教育科目・基礎教育科目・専門教育科目

1 共通教育科目

共通教育は、歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化が激しい現代社会において的確に判断できる知性及び知識、技能の修得、真摯な学びと実践を通じ、思いやりの心と豊かな感性を持つ自律的な個人の確立を目指している。

さらに、専門教育との有機的な連携に努力し、卒業後、様々な分野で社会をリードする女性を育成することを目的としている。

この目的のために、以下に示された5つの「MW教養コア」について、バランスのとれた学修と研鑽に努力すること。

MW 教 養 コ ア	1	人文、社会、自然の各分野における人間理解に関する広い知識と学ぶ態度の修得
	2	心身の健康のための運動習慣の形成と生命の尊さや倫理に関する知識・態度の向上
	3	ジェンダーの視点の理解と主体的な判断力・行動力の獲得
	4	自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成
	5	異文化を理解し、グローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識の修得

なお、共通教育科目は、年度ごとに一部変更があるので、大学ホームページ上の共通教育サイトの当年度『開講科目一覧』に従って履修すること。

【注意】共通教育科目は再試験を行わない。

共通教育科目の構成

基 礎 教 養 科 目 群	人 文 科 学 科 目	言語、行動、習慣、知恵、思考さらには文学、歴史、芸術、哲学など人間の文化全般について学ぶ。それにより、人間とは何か、人間としていかに生きるべきか、人間の本質を考える力を養う。
	社 会 科 学 科 目	人間は集団・社会を形成し、その社会生活を営むために必要な生活習慣・様式、制度などが作られている。それらの成り立ち・仕組みを学び、それらに係る諸問題にも目を向け、よりよい社会を作り上げる力を養う。
	自 然 科 学 科 目	生命や身の回りの自然現象や自然の成り立ち、環境に着目し、検証結果を整理し、新たな法則・知見を導き出す過程を理解する。また自然観を広げ、真理追求に必要な客観的な考え方、論理的に展開する基礎を学ぶ。
	国 際 理 解 科 目	諸外国の文化、政治、経済の実情を知り、文化・価値観の多様性を学ぶ。また日本との比較などを通じ、国際協力や国際協調などグローバルな視点で物事・事象を捉える力を養う。
	現 代 ト ピ ッ ク 科 目	今まさに、国内のみならず全世界で話題となっている事象を取り上げ、様々な視点・観点からその価値を知り、考察を深める。
ジ ェ ン ダ ー 科 目 群		男女共同参画時代を迎え、過去から現在に至る性差に関わる諸問題について多面的に学修する。その中で、これまでの伝統的価値である「女らしさ」、「男らしさ」や性別役割分業観を問い直す。
キ ャ リ ア デ ザ イ ン 科 目 群		自分を見つめ、自らの夢の実現のために、今何を学び、いかに自らの能力を伸ばすのかを考える。また社会人に必要なビジネスマナーやコミュニケーションスキルを磨き、企業の仕組みや職業などの知識を学ぶ。
言 語 ・ 情 報 科 目 群	言 語 リ テ ラ シ ー 科 目	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、イタリア語、スペイン語、ハングルなどの各国語について「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という実践を通し「言語リテラシー」を修得する。
	情 報 リ テ ラ シ ー 科 目	情報機器を使って、様々な学習活動や社会生活で活用するための知識・技能など「情報リテラシー」を修得する。
健康・スポーツ 科 目 群	健康・スポーツ科学科目	健康の概念や健康を保つための知識（栄養・薬・病気の予防など）を学ぶとともに、運動（スポーツ）が心身に及ぼす効果・影響などを科学的に検証することにより、健康な身体を維持する考え方や方法を学ぶ。
	ス ポ ー ツ 実 技 科 目	様々なスポーツ実技を通して、その種目のルールや運動の特性を知り、身体を動かす楽しさや充実感を味わい、生涯にわたってスポーツを楽しむ能力と態度を養う。
大学・初年次ゼミ	学 び 発 見 ゼ ミ	様々なテーマについて、ゼミ仲間でのディスカッション、グループワーク、演習、プレゼンテーションなどを通じ、主体的に学び、関わる力を養う。

2 基礎教育科目・専門教育科目

(1) 履修について

4年間で修得しなければならない単位数については、I履修方法で述べたとおりである。ここでは健康・スポーツ科学科において、4年間で履修できる基礎教育科目・専門教育科目を示す。

履修は原則として所属学科において開講されている科目についてのみ認められ、他学科の開講科目を履修することは認められない。また、履修上の制限や履修上留意しなければならないことがあり、それらを(注)として示してある。その注意事項を十分確認して誤りなく履修していくこと。

(2) 一覧表について

ア 科目番号について

科目番号は、その科目の学修の段階や順序、性質等を表し、教育課程の体系性が示されている。

(科目番号 付与ルール)

【健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科】

- 〈1〉1科目につき1番号が付与されている。
- 〈2〉先頭の番号は、入学年度の西暦の下2ケタを表す。
- 〈3〉英字①は大学院博士(D)、大学院修士(M)、大学(U)、共通(G)等を表す。
- 〈4〉英字②③は所属(研究科、専攻科、学科、資格課程)を表す。
- 〈5〉英字④は科目区分を表す(下記の表を参照のこと)。
- 〈6〉数字①は履修基準年次(学年)を表す。
- 〈7〉数字②は所属学科等内における分類を表す(下記の表を参照のこと)。
- 〈8〉数字③④は、所属学科、分類内における通し番号を表す。

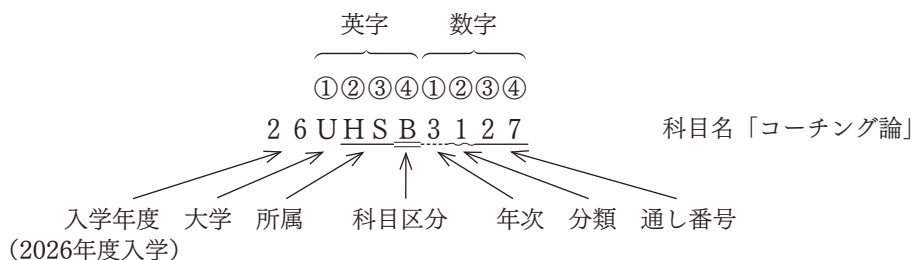
英字④ 科目区分

科目区分
A:基礎教育科目
B:専門教育科目

数字②分類

分類
0:基礎教育科目
1:専門教育科目
2:教職課程

(例:健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科 3年次開講 全コース共通科目
(スポ協Ⅲ)資格科目 「コーチング論」の科目番号)



イ 科目形態欄について

科目形態欄の科目形態は下記の意味を示す。

実	実験・実習・実技科目
外	学外実習科目
論	論文・研究等

ウ 科目必修欄について

必	必修科目（この科目の単位を修得しなければ卒業できない）
選必	選択必修科目（指定された科目群の中から決められた単位数以上修得しなければ卒業できない）

エ 資格欄について

表中、資格欄の記号は下記の意味を示す。

（中高体）	中学校教諭一種免許状（保健体育）と高等学校教諭一種免許状（保健体育）取得のための科目
（健士）	健康運動指導士受験資格取得に必要な科目
（健者）	健康運動実践指導者受験資格取得に必要な科目
（初パラ）	初級パラスポーツ指導員資格取得に必要な科目
（中パラ）	中級パラスポーツ指導員資格取得に必要な科目
（レ）	レクリエーション・インストラクター資格取得のための科目
（スポレ）	スポーツ・レクリエーション指導者資格取得のための科目
（スポ協Ⅰ・Ⅱ）	（公財）日本スポーツ協会（JSPO）公認スポーツ指導者制度「共通科目Ⅰと共通科目Ⅱ」の修了に必要な科目
（スポ協Ⅲ）	（公財）日本スポーツ協会（JSPO）公認スポーツ指導者制度「共通科目Ⅲ」の修了に必要な科目 ※スポ協Ⅰ＋Ⅱ科目に加えて履修する
（ア専）	（公財）日本スポーツ協会（JSPO）公認スポーツ指導者制度「アスレティックトレーナー専門科目」の修了に必要な科目。
（JATI）	日本トレーニング指導者協会（JATI）認定トレーニング指導者受験資格取得に必要な科目

※（公財）日本スポーツ協会（JSPO）公認資格についての詳細は103頁を参照のこと。

オ 開講期について

表中の各年次、前・後期欄の下記印はその学期に開講されることを表す。ただし、不規則な開講となる場合がある。また、開講科目、開講期については変更されることがある。

○	週1回開講
---	-------

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

◆ 基礎教育科目

科 目						資格	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次	
科目番号	名 称	単 位 数	形 態	必修			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
26UHSA	1001 初 期 演 習 I	1		必		(健士)(健者) (スポ協 I・II)(JATI) (中高体)(中パラ) (スポ協 I・II)	○							
	1002 初期演習 II (健康・スポーツ)	1		必				○						
	1003 健康・スポーツ科学論	2		必			○							
	1004 スポーツの文化・歴史	2		必			○							
	1005 情 報 リ テ ラ シ ー	2		必			○							
	1006 基 礎 英 語 I	1		必			○							
	1007 基 礎 英 語 II	1		必				○						
	2008 Oral Communication I	1		必					○					
	2009 Oral Communication II	1		必						○				
—	TOEIC 認定 英語 I	2												
—	TOEIC 認定 英語 II	2												
—	TOEIC 認定 英語 III	2												
—	TOEIC 認定 英語 IV	2												
26UHSA	2010 健 康 科 学 I	2							○					

◆ 専門教育科目

科 目						資格	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次	
科目番号	名 称	単 位 数	形 態	必修			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
26UHSB	2101 ス ポ ー ツ 心 理 学	2				(中高体)(健者) (中パラ)(JATI)				○				
	3102 ス ポ ー ツ 栄 養 学	2				(健士)(健者) (JATI)					○			
	1103 運 動 生 理 学	2				(中高体)(健士)(健者) (中パラ)(ア専)(JATI)	○							
	1104 ス ポ ー ツ 医 学	2				(健士)(健者) (スポ協 I・II)(JATI)		○						
	1105 ス ポ ー ツ 運 動 学	2				(中高体)		○						
	1106 体 育 原 理	2				(中高体)		○						
	1107 運動器の解剖と機能 I	2				(健士)(ア専) (JATI)	○							
	1108 運動器の解剖と機能 II	2				(ア専)(JATI)		○						
	1109 スポーツ外傷・障害の基礎知識 I	2				(ア専)		○						
	2110 スポーツトレーニングの科学 I	2				(健士)(健者)(中パラ) (スポ協 I・II)(JATI)				○				
	1111 アスレティックトレーニング論	2				(ア専)(JATI)	○							
	1112 救 急 処 置 演 習	1		必		(中高体)(健士)(JATI) (健者)(中パラ)(ア専)		○						
	2113 バイオメカニクス	2				(健士)(健者) (ア専)(JATI)				○				
	2114 学 校 保 健	2				(中高体)			○					
	3115 公 衆 衛 生 学	2				(中高体)						○		
	3116 発 育 発 達・老 化 論	2				(健士)(健者) (中パラ)					○			

科 目					資格	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次	
科目番号	名 称	単 位 数	形 態	必修		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2117	ス ポ ー ツ 指 導 論	2			(ス ポ 協 I・II) (JATI)			○					
3118	ス ポ ー ツ 社 会 学	2			(中高体)					○			
2119	スポーツ行政・法規	2			(ス ポ 協 I・II)				○				
2120	スポーツ経営管理学	2			(中高体)(ス ポ 協 I・II)			○					
3121	体力の測定評価演習	2			(健士)(健者)					○			
3122	スポーツ心理学実験	1	実							○			
3123	運 動 生 理 学 実 験	1	実							○			
3124	バイオメカニクス実験	1	実							○			
3125	専 門 英 語 A	1	}	選必1						○	(○)		
3126	専 門 英 語 B	1								○	(○)		
3127	コ ー チ ン グ 論	2			(ス ポ 協 III)					○			
3128	健康・スポーツカウンセリング	2			(健士)						○		
3129	生 活 習 慣 病 論	2			(健士)(健者)					○			
3130	運 動 処 方	2			(健士)(健者) (JATI)						○		
3131	フィットネス指導法	2			(健士)(健者)						○		
3132	介護法・介護予防演習	2			(健士)						○		
4133	運 動 療 法 演 習	2			(健士)							○	
4134	健康行動科学・演習	2			(健士)							○	
4135	健康・スポーツ実践実習	1	外		(健士)(レ)(スポレ)							○	(○)
26UHSB3136	レクリエーション論	2			(レ)(スポレ)					○			
3137	レクリエーション指導法演習	1			(レ)(スポレ)						○		
4138	レクリエーション指導法実習	1	実		(レ)(スポレ)							○	
3139	障がい者スポーツ論Ⅰ	2			(初パラ)(中パラ)						○		
4140	障がい者スポーツ論Ⅱ	2			(中パラ)							○	
4141	障がい者スポーツ指導法	2			(初パラ)(中パラ)								○
1142	ス イ ミ ン グ	1	実	}	(中高体)(健士) (健者)(レ)(スポレ)		○						
1143	トラックアンドフィールド	1	実		(中高体)(レ)(スポレ)		○						
1144	体 操	1	実		(中高体)(レ)(スポレ)		○						
2145	器 械 運 動	1	実	}	(中高体)(レ)(スポレ)			○					
2146	バ レ ー ボ ー ル	1	実		(中高体)(レ)(スポレ)			○					
1147	バスケットボール	1	実		(中高体)(レ)(スポレ)	○							
1148	ハ ン ド ボ ー ル	1	実	}	(中高体)(レ)(スポレ)	○							
1149	柔 道	1	実		(中高体)(レ)(スポレ)	○							
2150	剣 道	1	実		(中高体)(レ)(スポレ)				○				
1151	ダ ン ス Ⅰ	1	実	必	(中高体)(レ)(スポレ)	○							
1152	ダ ン ス Ⅱ	1	実		(中高体)		○						
2153	ダ ン ス Ⅲ	1	実		(中高体)			○					
1154	保健体育科指導法Ⅰ	2			(中高体)		○						
2155	保健体育科指導法Ⅱ	2			(中高体)			○					

科 目					資格	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次	
科目番号	名 称	単 位 数	形 態	必修		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
2156	保健体育科指導法Ⅲ	2			(中高体)				○				
2157	保健体育科指導法Ⅳ	2			(中高体)			○					
2158	保健体育科指導法(陸上競技・水泳)	1			(中高体)			○					
2159	保健体育科指導法(球技)	1			(中高体)				○				
2160	保健体育科指導法(武道・ダンス)	1			(中高体)				○				
2161	保健体育科指導法(体つくり運動・器械運動)	1			(中高体)				○				
2162	エアロビックダンス	1	実		(健士)(健者)				○				
3163	アクアエクササイズ	1	実		(健士)(健者)					○			
1164	海外の健康・スポーツの研究	2	外			○	(○)						
2165	マリンスポーツ実習	1	外	選必1	(レ)(スポレ)			○					
2166	キャンプ実習	1	外		(レ)(スポレ)			○					
2167	スノースポーツ実習	1	外		(レ)(スポレ)				○				
4168	健康・スポーツ科学の統計学演習	1										○	
2169	2 年 次 演 習	1		必					○				
3170	卒 業 研 究 I	2		必						○	○		
4171	卒 業 研 究 II	4	論	必								○	○
26UHSB	1201 教 職 入 門	2			(中高体)	○							
	1202 教 育 原 理	2			(中高体)		○						
	1203 教 育 史	2			(中高体)	○							
	1204 教 育 心 理 学	2			(中高体)		○						
	2205 発 達 心 理 学	2			(中高体)				○				
	1206 教 育 行 政 学	2			(中高体)		○						
	2207 教 育 課 程 総 論	2			(中高体)			○					
	2208 教育方法の理論と実践	1			(中高体)			○					
	1209 ICT活用の理論と実践	1			(中高体)		○						
	2210 道 徳 教 育 指 導 論	2			(中高体)				○				
	2211 生徒指導・進路指導	2			(中高体)				○				
	2212 教育相談の理論と方法	2			(中高体)			○					
	3213 教育実習事前事後指導(中高)	1			(中高体)					○	○		
	3214 教育実習 I (中高)	2	外		(中高体)(レ)(スポレ)					○			
	3215 教育実習 II (中高)	2	外		(中高体)(レ)(スポレ)					○			
	4216 教職実践演習(中高)	2			(中高体)								○
	1217 特 別 支 援 教 育 論	2			(中高体)	○							
	2218 総合的な学習の時間と特別活動	2			(中高体)			○					
	2219 教育実習事前指導(中高)	1			(中高体)				○				
2172	スポーツ外傷・障害の基礎知識Ⅱ	2			(ア専)			○					
2173	コンディショニング指導論	2			(ア専)				○				
2174	コンディショニング指導演習Ⅰ	2			(ア専)			○					
3175	コンディショニング指導演習Ⅱ	2			(ア専)					○			

科 目					資格	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次	
科目番号	名 称	単 位 数	形 態	必修		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	2176 検査・測定評価実習	1	実		(ア専)(JATI)				○				
	3177 パフォーマンス向上論	2		選必 [†]	※ (ア専)(JATI) (ア専)(JATI) (ア専) (ア専)					○			
	3178 パフォーマンス向上演習	1		選必 [†]							○		
	4179 ジュニアスポーツ指導論	2		選必 [†]								○	
	4180 ジュニアスポーツ指導演習	1		選必 [†]									○
	3181 健康管理とスポーツ医学	2			(ア専)					○			
26UHSB	2182 A T 実践実習Ⅰ	2	実					○	○				
	3183 A T 実践実習Ⅱ	2	実							○	○		
	4184 スポーツトレーニングの科学Ⅱ	2			(ア専)							○	
	3185 スポーツ現場の救急対応	1	実		(ア専)(JATI)					○			
	2186 アスレティックトレーニングⅠ	2			(ア専)(JATI)				○				
	3187 アスレティックトレーニングⅡ	2			(ア専)					○			
	3188 アスレティックトレーニングⅢ	2			(ア専)						○		
	4189 スポーツの心理と栄養	2			(スポ協Ⅲ)							○	
	3190 健康科学Ⅱ	2									○		

- (注) 1 「保健体育科指導法(陸上競技・水泳)」は履修・成績処理においては、「保体科指導法(陸上・水泳)」と表される。
「保健体育科指導法(武道・ダンス)」は履修・成績処理においては、「保体科指導法(武道・ダンス)」と表される。
「保健体育科指導法(体づくり運動・器械運動)」は履修・成績処理においては、「保体科指導法(体づくり・器械)」と表される。
- (注) 2 「マリンスポーツ実習」を履修するには、「スイミング」の単位を修得していることを条件とする。
- (注) 3 選必[†]※のうち、3単位(「パフォーマンス向上論」「パフォーマンス向上演習」又は「ジュニアスポーツ指導論」「ジュニアスポーツ指導演習」の組みあわせで)修得すること。
- (注) 4 (○)の学期に開講されることがある。
- (注) 5 「海外の健康・スポーツの研究」を卒業学年で履修する場合、開講時期によっては単位認定がされないことがあるので注意すること。また、募集の際に通知する最少開講人数に満たない場合は、不開講とする。
- (注) 6 「健康科学Ⅰ」「健康科学Ⅱ」は、3学科(健康・スポーツ科学科、食物栄養学科、健康生命薬科学科)連携教育科目。
- (注) 7 3年次開講「スポーツ心理学実験」「運動生理学実験」「バイオメカニクス実験」については、実験室の関係で受講者人数が制限される場合があると同時に、時間割上同時に開講される場合があるので注意すること。
- (注) 8 3年次前期・後期に開講される科目について、一部(健士)健康運動指導士資格科目と(ア専)アスレティックトレーナー資格科目が、時間割上同時に開講される場合がある。履修できなかった科目を履修希望の場合は、4年次に3年次開講の科目を履修すること。
- (注) 9 (中高体)中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状(保健体育)の科目は、106頁「教科及び教科の指導法に関する科目」、107～108頁「教育の基礎的理解に関する科目等」及び108頁「大学が独自に設定する科目」に記載されている取得のための科目すべてに付いている。資格取得のために必要となる単位数については、106～108頁及び「教職基礎科目」262～263頁を参照し、必修単位以上を修得すること。
- (注)10 初級・中級パラスポーツ指導員資格取得希望者は、共通教育科目の「スポーツ実技(パラスポーツ)」と「障がい者とパラスポーツ」を履修することが望ましい。
- (注)11 (公財)日本スポーツ協会(JSPO)公認スポーツ指導者資格に必要な条件については、次頁の表を参照すること。
各共通コース対応単位修得時点で学科に受講完了申請を行い、JSPOにより設定された期間に資格登録手続きを完了することで学内カリキュラムの受講認定となる。

(公財) 日本スポーツ協会 (JSPO) 公認スポーツ指導者資格に必要な条件

資 格 名 称		本学で受講できるカリキュラム					学 外 で の 受 講 を 要するカリキュラム
		共通科目			左記に対応する 本学開講科目	専門 科目	左記に対応する 本学開講科目
		I	II	III			
スポーツ指導基礎資格	スポーツコーチングリーダー	◎			(スポ協 I・II)		
競技別指導者資格	コーチ 1	◎			(スポ協 I・II)		専門科目：20h以上
	コーチ 2	◎	◎		(スポ協 I・II)		専門科目：40h以上
	コーチ 3・教師	◎	◎	◎	(スポ協 I・II) (スポ協III)		専門科目：60h以上
フィットネス系資格	ジュニアスポーツ指導員	◎			(スポ協 I・II)		専門科目：40h以上
	スポーツプログラマー	◎	◎		(スポ協 I・II)		専門科目：63h以上
メディカル・コンディショニング資格	アスレティックトレーナー	◎	◎	◎	(スポ協 I・II) (スポ協III)	◎	(ア専) 救急員養成講習： 16.5h以上
マネジメント資格	アシスタントマネジャー	◎			(スポ協 I・II)		専門科目：35h以上
	クラブマネジャー	◎			(スポ協 I・II)		専門科目：167.5h以上

◎：本学の所定の科目を受講することで講習会が免除される。

- (注)12 アスレティックトレーナー (AT) 資格取得には、①AT専門科目の修得、②共通科目Ⅲ (スポ協 I・II・Ⅲ) の受講完了申請と「スポーツコーチングリーダー」の登録、③AT現場実習180時間の完了、④①～③の受講完了申請、⑤実技確認テストの合格、⑥全国筆記検定試験の初回受験登録申請 (一次救命処置 (BLS) 資格を保有) を在学期間中に、順に修了する必要がある。
- (注)13 AT現場実習は指定条件を満たす活動のみ認定され、担当教員の指導のもと実施する。実習の参加に際しては、年度ごとに実習登録費を徴収する。
- (注)14 実技確認テストは、(注) 12に記載の①～④をすべて修了した学生のみが受験対象となる。また、卒業後には受験できず、在学期間中であっても期日までに必要な実習時間を修了していない場合は受験できない。
- (注)15 全国筆記検定試験の初回受験登録申請は在学期間中のみ可能であり、有効期限内の一次救命処置 (BLS) 資格を登録申請時に保持している必要がある。なお、全国筆記検定試験は実技確認テストを合格した者のみが受験できる。
- (注)16 「AT実践実習Ⅰ」及び「AT実践実習Ⅱ」の履修はAT資格取得のために必須ではないが、AT現場実習を計画的に遂行するうえで履修が推奨される科目となる。
- (注)17 (レ) はレクリエーション・インストラクター取得、(スポレ) はスポーツ・レクリエーション指導者取得のための科目すべてに付いているが、「選必1」の(レ)・(スポレ) については、卒業要件を満たす単位数を修得すること。加えて、「健康・スポーツ実践実習」又は「教育実習Ⅰ (中高)」・「教育実習Ⅱ (中高)」のいずれかを修得すること。ただし、実習の履修に際しては、「健康・スポーツ実践実習」は健康運動指導士資格取得のための科目 (健士) を履修していること、「教育実習Ⅰ (中高)」・「教育実習Ⅱ (中高)」は教職課程を履修していることが条件であり、どの実習参加においても、実習前までに大学・学科が定める単位修得要件を満たすことが必要となる。
- (注)18 「教育実習Ⅰ (中高)」・「教育実習Ⅱ (中高)」は、実習先により、後期に実習期間が設定されることがある。

(注)15 資格申請手続きについて

資 格 名 称	申 請 手 続	資 格 試 験 ※学外機関が実施	資格証等の授与
健康運動指導士	① MUSESで事前に単位の修得状況を確認する。 ② 4年次に学科が実施する説明会に出席して申込書類を入手する。 ③ 個人で受験申込み手続きを行う。 (受験料・登録料が必要)	資格認定試験(筆記試験) 4年次9月・11月・3月	資格証明書は、健康・体力づくり事業財団より自宅に送付される。
健康運動実践指導者	① MUSESで事前に単位の修得状況を確認する。 ② 4年次に学科が実施する説明会に出席し、認定試験受験申込み手続きを行う。 (受験料・登録料が必要)	資格認定試験 (実技試験及び筆記試験) 受験結果(資格取得者)発表 4年次3月	資格証明書は、健康・体力づくり事業財団より自宅に送付される。
初級パラスポーツ指導員 中級パラスポーツ指導員	① 4年次に資格取得の申請を認められる。 ② MUSESで事前に単位の修得状況を確認する。 ③ 学科が実施する申請受付の期間中に申請手続きをする。 (申請料・登録料が必要) なお、中級パラスポーツ指導員は、4年間で中級パラスポーツ指導員に必要な講習科目(57時間)の履修と、在学中に80時間以上の指導経験を積み、卒業時に資格取得申請ができる。 (注)指導経験の記録には、活動実績証明(手帳)に担当者の証明が必要である。	な し	資格認定証は、卒業式の日に配付する。
レクリエーション・インストラクター	① 4年次に資格取得の申請を認められる。 ② MUSESで事前に単位の修得状況を確認する。	な し	資格証明書は、卒業式の日に配付する。
スポーツ・レクリエーション指導者	③ 12月に学科が実施する説明会に出席し、申請手続きをする。 (登録料・公認料・その他事務手数料が必要)		
日本スポーツ協会(JSPO) 公認スポーツ指導者 ・スポーツコーチングリーダー ・共通コース(共通科目Ⅰ、共通科目Ⅱ、共通科目Ⅲ)	① 共通コース対応単位修得時点で学科に受講完了申請を行う。 ② 学科が実施する申請受付の期間中に申請手続きをする。 (毎年2月・7月) (注)申請手続きの最終期限は卒業時までとなる。 (卒業後は受け付けられない)	設定期間内にJSPO実施のオンライン試験を受験 (受験・合格しない場合は、養成講習会の免除は受けられない)	資格登録手続き (個人で登録手続きを行う：毎年8月・2月※登録料必要) 共通コースは登録手続きにより資格認定をオンライン管理。 スポーツコーチングリーダーは共通科目Ⅰ以上修得で資格取得可能。 スポーツコーチングリーダー資格証は日本スポーツ協会より送付される。

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー (JSPO-AT)	在学期間中に①AT専門科目の修得、②共通科目Ⅲの受講完了申請と「スポーツコーチングリーダー」の登録、③AT現場実習180時間の完了、④①～③の受講完了申請、⑤実技確認テストの合格を順に修了し、その後全国筆記検定試験の受験申請を行う（すべて在学期間中での手続きが必要。卒業後の申請は不可）。	全国筆記検定試験は、大学で受験登録を行った後、各自が全国のテストセンターで受験する。 【試験概要】 ・実施回数：年2回（春期：5～6月、秋期：11～12月） ・実施方法：CBT (Computer Based Testing) 方式 ・試験区分：基礎科目・応用科目の2科目で構成	試験合格後、資格登録手続きを各自で行う。(登録料必要)
日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者 (JATI-ATI)	① JATI対応科目単位修得および修得見込みで受験資格の申請が可能となる。 ② 当該年度で受験を希望するものは7月に学科が実施する説明会に出席し申込書類を入手する。 ③ JATIが実施する試験日程において学科が指定する各回の受験受付期間中に受験手続をする。(受験料が必要)	資格認定試験（筆記試験）	資格登録手続きを各自で行う。(登録料必要)
教育職員免許状	「免許・資格」頁参照		

TOEIC認定英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳについて

- ・入学以前又は以後に、次の表に定めるTOEICスコアを取得した者は、その程度に応じて単位（一部又はすべて）を基礎教育科目として認定する。成績評価は「認」と表示する。
- ・毎年度後期の最終授業日までに、国際センターへTOEICスコア証明書原本又はQRコードが印字されているデジタル公式認定証を提示し、「単位認定願」とともに提出すること。

スコア	科目名				単位数	評価
500～595	TOEIC認定英語Ⅰ				2	認
600～695	TOEIC認定英語Ⅰ	TOEIC認定英語Ⅱ			4（各2）	認
700～795	TOEIC認定英語Ⅰ	TOEIC認定英語Ⅱ	TOEIC認定英語Ⅲ		6（各2）	認
800～990	TOEIC認定英語Ⅰ	TOEIC認定英語Ⅱ	TOEIC認定英語Ⅲ	TOEIC認定英語Ⅳ	8（各2）	認

（注1）TOEIC®L&R公開テスト、TOEIC®-IPテストを対象とする。IPテストは本学が実施したマークシート方式テストが対象で、オンライン方式テストは対象外。

（注2）単位認定後、さらに上位のスコアを取得した場合は、認定されていない科目のみ認定される。

（注3）2023年4月以降受験のTOEIC® L&R公開テストで申請する場合は、さらにTOEIC® 申込サイトのスコア確認サービスを通してスコアの提出が必要。

3 中学校・高等学校教職課程

教職課程の履修上の注意・履修手続き、基礎資格、「教職基礎科目」、教育目標、カリキュラム・ポリシー、履修モデル、到達目標等については、「免許・資格」Ⅰ教職課程の項を確認すること。

「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目等」は、学科の基礎・専門教育科目に置く（「基礎教育科目・専門教育科目」の表には、「資格」欄に（中高体）を表示）。開講年次・開講期は「基礎教育科目・専門教育科目」表で確認のこと。ただし、卒業要件に係わる必修・選択等の区分と教職課程における区分は異なるため、各項の表の区分に従って所要単位を修得しなければならない。

1 「教科及び教科の指導法に関する科目」について（免許法施行規則第4条及び第5条）

免許状取得に必要な「教科及び教科の指導法に関する科目」及びその履修方法については、以下のとおりである。

中一種免・高一種免（保健体育）

		免許法施行規則に規定する科目・単位数		本学開講科目・単位数				
		科目	単位数	開講科目	単位数	中一種免 必修単位	高一種免 必修単位	備 考
教科及び教科の指導法に関する科目（第二欄）	教科に関する専門的事項	体育実技	1 以上	○ ス イ ミ ン グ	1	1	1	
				○ ト ラ ッ ク ア ン ド フ ィ ー ル ド	1	1	1	
				○ 体 操	1	1	1	
				○ 器 械 運 動	1	1	1	
				○ バ レ ー ボ ー ル	1	1	1	
				○ バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	1	1	1	
				○ ハ ン ド ボ ー ル	1	1	1	
				○ ダ ン ス I	1	1	1	
				○ ダ ン ス II	1	1	1	
				○ 柔 道	1			
				○ 剣 道	1	1	1	
				ダ ン ス III	1			
		「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	「」内のいずれか1科目及び運動学で1以上	○ 体 育 原 理	2			体育原理
				○ ス ポ ー ツ 心 理 学	2			体育心理学
				○ ス ポ ー ツ 経 営 管 理 学	2	2	2	体育経営管理学
				○ ス ポ ー ツ 社 会 学	2			体育社会学
				○ ス ポ ー ツ の 文 化 ・ 歴 史	2			体育史
				○ ス ポ ー ツ 運 動 学	2	2	2	運動学（運動方法学を含む。）
		生理学（運動生理学を含む。）	1 以上	○ 運 動 生 理 学	2	2	2	（運動生理学を含む。）
		衛生学・公衆衛生学	1 以上	○ 公 衆 衛 生 学	2	2	2	衛生学・公衆衛生学
		学校保健 （小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	1 以上	○ 学 校 保 健	2	2	2	小児保健、精神保健、学校安全を含む。
				○ 救 急 処 置 演 習	1	1	1	救急処置を含む。
		各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	中8以上 高4以上	保健体育科指導法Ⅰ	2	2	2	（情報通信技術の活用を含む。）
				保健体育科指導法Ⅱ	2	2	2	
				保健体育科指導法Ⅲ	2	2	2	
				保健体育科指導法Ⅳ	2	2	2	
				保健体育科指導法（陸上競技・水泳）	1	1	1	
				保健体育科指導法（球技）	1	1	1	
				保健体育科指導法（武道・ダンス）	1	1	1	
				保健体育科指導法（体つくり運動・器械運動）	1	1	1	
			中28以上 高24以上	計	43	33	33	

【履修方法】

(1) 同一免許教科でも、中一種免と高一種免の取得に必要な単位数は異なる。中一種免と高一種免を同時に取得する場合は、それぞれの単位数を満たさなければならない。ただし、中一種免と高一種免で、いずれの学校種でも必要とされている科目の単位は一度修得すれば両方の学校種の単位として有効である。それぞれの教職必修を満たして中一種免28単位以上、高一種免24単位以上修得すること。ただし必要な単位は本学では次のとおりとする。

- ・中一種免：33単位
- ・高一種免：33単位

(2) ○印を付した科目は、免許法施行規則第4条備考2に定められた「一般的包括的な内容」を含む科目である。

2 「教育の基礎的理解に関する科目等」について（免許法施行規則第4条及び第5条）

免許状取得に必要な「教育の基礎的理解に関する科目等」及びその履修方法については、以下のとおりである。

免許法施行規則に定める科目			修法定 単最低	本学の開設 授業科目	単 位 数	必 中 修 単 位 免	必 高 修 単 位 免	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		備考
	左の科目に含める ことが必要な事項	前期						後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教 育 原 理	2	2	2		○							
		教 育 史		2			○									
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教 職 入 門	2	2	2	○							（チーム学校運営への対応を含む。）	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教 育 行 政 学	2	2	2		○						（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教 育 心 理 学 発 達 心 理 学	2 2	2 2	2 2		○ ○							
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2	2	2	○								
		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程総論	2	2	2			○						（カリキュラム・マネジメントを含む。）
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10・高8	道徳教育指導論	2	2	－				○					
		・総合的な学習の時間の指導法〔中〕 ・総合的な探究の時間の指導法〔高〕		総合的な学習の時間と特別活動	2	2	2				○					
		・特別活動の指導法														
		・教育の方法及び技術		教 育 方 法 の理 論 と 実 践	1	1	1				○					
		・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		I C T 活 用 の理 論 と 実 践	1	1	1		○							
		・生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導	2	2	2					○				
		・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教 育 相 談 の理 論 と 方 法	2	2	2				○					（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）
第五欄	教育実践に関する科目	・教育実習	中5・高3	教育実習事前指導（中高）	1	1	1				○					
		教育実習事前事後指導（中高）		1	1	1					○	○			事前事後指導	
		教育実習Ⅰ（中高）		2	2						○ ^{（注）}					
		教育実習Ⅱ（中高）		2	2	2					○ ^{（注）}					
		・教職実践演習	2	教職実践演習（中高）	2	2	2								○	
合 計			中27 高23	計	34	30	26									

（注） 実習先により、後期に実習期間が設定されることがある。

【履修方法】

- (1) 同一免許教科でも、中一種免と高一種免の取得に必要な単位数は異なる。中一種免と高一種免を同時に取得する場合は、それぞれの単位数を満たさなければならない。ただし、中一種免と高一種免で、いずれの学校種でも必要とされている科目の単位は一度修得すれば両方の学校種の単位として有効である。それぞれの教職必修を満たして中一種免27単位以上、高一種免23単位以上修得すること。ただし必要な単位は本学では次のとおりとする。

・中一種免：30単位

・高一種免：26単位

高一種免取得の場合、「道徳教育指導論」は、「大学が独自に設定する科目」の単位数に算入される。

(2) 以下の4科目には履修要件が適用される。(履修規程第32条)

「教育実習Ⅰ(中高)」 「教育実習Ⅱ(中高)」 「教育実習事前事後指導(中高)」 「教職実践演習(中高)」

教育実習に行く前年度末までに所定の科目の単位を修得し、所属する学科の定める要件を満たしていること。学科ごとに定める所定単位、及び要件は下の表のとおりとする。履修可否については大学が判定を行い、結果は所属する学科より通知する。

「教育実習Ⅰ(中高)」 「教育実習Ⅱ(中高)」 「教育実習事前事後指導(中高)」 「教職実践演習(中高)」 履修のための最低修得単位数						
学 部	学 科	免 許 教 科	各学科に開講する基礎・専門教育科目		その他の要件	備 考
			うち「教科に 関する専門的 事項の科目」 の単位数	教育の基礎的理解に関する科目等、 各教科の指導法 以下の授業科目を 含むこと		
健 康 ・ スポーツ科学部	健 康 ・ スポーツ科学科	保 健 育	50単位 以 上	15単位 以 上	20単位 以 上	教育実習事前指導(中高)
						保健体育科指導法Ⅰ
						保健体育科指導法Ⅱ
						保健体育科指導法Ⅲ or Ⅳ

- ・上表の当該科目に開講期の変更がある場合は、履修要件を満たすための最低修得単位数を増減する。
- ・特別な事情のある者についてはこの規定に準じて別に審査する。
- ・実習に際しては、実習先の求めに応じ、大学が特定の感染症のワクチン接種を指示することがある。
- ・「こども性暴力防止法」により課程履修手続き時に求めた「同意書」及び「誓約書」を提出していること。
- ・教育実習受入依頼、又は教育委員会等への申込みが完了していること。
- ・4年次に教育実習を実施せざるを得なくなった者については、別の履修要件を設定する。詳細については、学校教育センター委員が個別に指導する。

3 「大学が独自に設定する科目」について(免許法施行規則第4条及び第5条)

免許状取得に必要な「大学が独自に設定する科目」及びその履修方法については、下記のとおりである。

中一種免

免許法施行規則に 規定する科目	法定最低 修得単位	算入可能な単位	履修方法
大 学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目	4	①28単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」	①②の中から、合計4単位以上修得すること
		②27単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」	

高一種免

免許法施行規則に 規定する科目	法定最低 修得単位	算入可能な単位	履修方法
大 学 が 独 自 に 設 定 す る 科 目	12	①24単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」	①②③の中から、合計12単位以上修得すること
		②23単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」	
		③次にあげる本学の開設授業科目 道徳教育指導論(2単位)	